教職課程センター紀要　第2号　317－323ページ，2017年12月
Jour. Center Teacher Develop. Edu. Res., Daito Bunka Univ., No.2 317-323, Dec. 2017

実践報告

男女混合による，授業ラグビーの実践報告

―キャッチパスの習得を目指してゲームに生かす―

Practice Report of Classroom Rugby by Mixed Gender

—Aim to Master Catch Pass Make Use of it in Games—

田中　大雄，廣瀬　恒平

Hiroo TANAKA，Kouhei HIROSE

Key words：授業ラグビー，スクリューパス，男女混合

Ⅰ．諸言

スポーツ基本法の施作の１つに，学校体育における体育の充実が挙げられている。具体的には，体育に関する指導の充実，体育に関する教員の資質の向上などである。これらの施作の実現のために，各大学において施作を実現するための方法や目標が掲げられている。大東文化大学スポーツ科学科においては，「理論と実践が調和した現場のニーズに応えるスポーツ指導者の育成」また，「明日に向かって成長し続ける教員を育てる」と掲げている。理論と実践は，一方だけが優れていれば良いわけでなく，両方が融合していて，初めて子供たちにスポーツや運動の楽しさや喜びを伝えることが出来る。また，教員になった時に，大学で身につけた深い専門的知見と実践的指導力が，教育現場にて力を発揮する源になる。そうした人材の育成は，まさに我々の日々の授業に，かかっていると言える。

現在の学校体育の授業では，岡沢ら[1)]は運動の楽しさを多くの児童生徒が味わえるように，運動に対する内発的動機づけを高めるアプローチが必要あると述べており，出来ないことが少しでも出来るようになった時の有能さを高めることが，運動場面においての自信につながると提唱している。また，この運動有能感を高める授業の一つとして，小畑ら[2)]は，フラッグフットボールやタグラグビーであると報告している。タグラグビーは，ボールの操作も比較的容易で，運動が苦手な子供でも活躍する場面がしばしば見られるスポーツとして注目されている。また，ラグビーは，陣取りゲーム型スポーツとして，ゲーム攻防が完全にわかれ，作戦に基づいてゲームを進めることができるとされている。ただ一方で，大きな問題点としては，ラグビーの未経験者が多くいる大学授業の中で，本来必要とされる運動技能技術が未熟なため，ラグビーのゲーム特性に触れることが出来ない生徒が多くみられるという一面もある。そういった未経験者でも容易に授業に参加でき，学習意欲を高める授業展開の１つとして，戦術学習の授業つくりがある。八百ら[3)]は，大学での授業ラグビーにおいて，タグラグビーを用いての戦術学習は，学習に積極的に参加する意識が強くなる傾向があると述べている。また，西山ら[4)]も，戦術学習（戦術を中心としたクラス），技術学習（技術を中心としたクラス）を授業比較した中で，ソフトバレーボールの授業においては，戦術学習を取り入れた授業の方に学習効果があったと述べている。しかし，一方で，ラグビーフットボールの目的は，[5)]「ボールを持って走り，パス，キックをして，出来る限り得点することである」と述べられている。授業ラグビーの中で，ボールを持って走るというランニングは，さほど運動技術技能が必要とされないが，味方同士をつなぐパスというのは，未経験者からすると，前に走りながら横もしくは後ろにパスをする為，高度な運動技術技能が必要とされる。特にパスの中でも，ボールに回転をかける，スクリューパスについては，高度な技術と専門的な知識が必要となる為，大学授業ラグビーの中でも教材の１つとしてあまり取り上げられないでいる。

そこで，これまでパスの専門的な技術や技能を取り上げてこなかった技術学習について，今後の授業ラグビーを発展させる為にも，もう一度技術学習に目を向けて，大東文化大学スポーツ科学科の理念である「理論と実践が調和した現場のニーズに応えるスポーツ指導者の育成」に少しでも近い指導者が育成出来るように，授業ラグビーの新たな教材の開発を目指したい。

そこで，本研究の目的は，これまでの戦術的学習を多く取り上げてきた授業ラグビーを，さらに発展させた授業へ開発する為に，高度な技術技能と専門的知識が必要とされるラグビーの魅力の一つであるスクリューパスを大学授業ラグビーの教材の１つとして取り上げることが出来るかを検討し，ここにラグビーの新たな教材の開発に取り組んだ内容を実践報告する。

Ⅱ．実践方法

１．対象者

2017年度ラグビーＡ受講者の男子20名と女子12名の32名で行った。なお，受講者の内，ラグビー経験者は，男子５名（大東文化大学ラグビー部）で，それ以外は全員未経験者であった。

２．期間

平成29年４月13日から７月20日までの全14回

３．授業計画

授業計画としては，復習学習とプリント学習を最初の15分行い，残り時間の前半を技術学習で計画し，後半を戦術学習と振り返りで構成した（表１）。また，本研究の目的である，スクリューパスの学習がより効果的に進められるように，技術学習を以下の４つの柱を中心に計画し行った。

1．授業の最初に必ず復習とプリント学習を行い，終わりに振り返りを必ず行うということ。
2．未経験者でもスクリューパスの動きをイメージ出来るように，スクリューパスの動きを言語化しリストにそって学習したこと（表２，図１，図２）。
3．スクリューパスの動きを，細分化した技術練習を導入し，実践したこと。(図３，図４，図５)
4．授業の後半に必ずゲーム形式を導入し技術学習がゲーム形式の中で生かせるように計画したこと。

１つ目のプリント学習については，その日の授業の狙いやポイントなどをまとめたプリントを作成し，ディスカッション形式であなうめをしながら行った。その際，ラグビー経験者などの実際のプレーなどを見せ，より学習のイメージがしやすいように配慮した。２つ目と３つ目の技術学習では，基本的にはキャッチとパスをディフェンスがいる状況で正確に実践出来るようになることを最終的な狙いとして行った。４つ目の戦術学習では，簡単なルールを決めて，基本的には攻撃側が有利になるように計画し，ディフェンスとある程度の攻防が出来るように行った。その際，チーム作りは，男女が必ず均等に別れるように注意し，経験者も均等に別れるように配慮した。そして，授業の最後は，個人ごとの振り返りの時間を５分ほど持たせ，授業の最初に配ったプリントに，良かった点と悪かった点を記入させた。最後にプリントは回収し，次回の授業で良かった点と悪かった点に対して，教員からのアドバイスを明記し返却した。

表１　授業計画

授業計画		授業の流れ		
		前半		後半
		復習・プリント学習	技術練習	戦術学習
1	ガイダンス	ラグビーのルールや競技特性の理解		
2	ラグビーボールになれるための各種ゲーム①	正しいボールの持ち方	基本的な持ち方と投げ方	ボール鬼
3	ラグビーボールになれるための各種ゲーム②	スクリューパスの基礎	スクリューパスの持ち方と投げ方	ボールゲーム パスリレー
4	動きながらのキャッチ&パス①	ラグビーのルール	スクリューパスでのサンドイッチパス	ボールゲーム パスリレー
5	止まったディフェンスをつけてのキャッチ&パス②	ラグビーの用語①	スクリューパスでの連続サンドイッチパス	ボールゲーム パスリレー
6	動くディフェンスをつけてのキャッチ&パス③	ラグビーの用語②	ひし形サポート	4対2 連続３回競争
7	ラインを作ってのキャッチ&パス④	ディフェンスを抜く方法	攻撃練習（クロス、ループ）	7対4の タッチラグビー
8	アタックとディフェンスの攻防_攻撃側有利①	オフサイド オフサイドライン	7人でのハンドリング	7対4の タッチラグビー
9	アタックとディフェンスの攻防_攻撃側有利②	タグラグビーについて	7人でのハンドリング_対面	7対5 タグラグビー
10	アタックとディフェンスの攻防①	スクリューパスの基礎復習	2人でのサンドイッチパス	7対7 タグラグビー
11	アタックとディフェンスの攻防②	ラグビーのルール復習	3人での連続サンドイッチパス	10対10 タグラグビー
12	アタックとディフェンスの攻防③_攻撃側有利①	ラグビーの用語① 復習	ひし形サポート	12対12 タッチラグビー
13	アタックとディフェンスの攻防④_攻撃側有利②	ラグビーの用語② 復習	4人でのハンドリング	12対12 タッチラグビー
14	スキルテストと筆記試験			

表２　技術学習の動きの言語化リスト

項目	動き	言語化
基礎的な持ち方	両手で優しく、ボールの中心を持つこと。	『ラッピング』
基本的なキャッチの仕方	常に両手を出していつでもキャッチ出来る準備をすること。	『ハンズアップ』
	肩は常にリラックスし、胸の前でキャッチすること。	『スクエア』
基本的なパスの投げ方	ターゲットをしっかり見ること。	『ネックロール』
	正確にターゲットに向けてパスをすること。	『フォロースルー』
	投げる手のラッピングをボールの中心より下にし、深めにラッピングする。	『深めのラッピング』
スクリューパスの持ち方	反対の手のラッピングは、中心より上にし、親指と人差し指で挟むようにラップする。	『挟むラッピング』
スクリューパスの投げ方	腕の位置で構える。	『セットポジション』
	腕の位置で構えて、ボールの先端を、ターゲットに向ける。	『先端はターゲット』

４．授業の実践

１回目から７回目までをラグビーの基本指導期として，ラグビーの基本的な考え方や技術，ルール，ラグビー用語について学ぶ。８回目から14回目までを，発展指導期

として基本指導期で学習した内容をある程度反復させ，ゲーム形式の中で正確に実践出来ることを見につけさせる。具体的な授業の実践は，以下の通りである。

1）基本指導期

第1回：ラグビーの競技の特性やルールの理解

これから学ぶラグビーについて，ラグビーやタグラグビー，また去年の授業の様子などを映像で流し，これからの学習の準備をさせる。

第2回～3回：ラグビーボールに慣れる為の各種ゲーム①②

技術学習で，ラグビーの正しいボールの持ち方や基本的な投げ方を身につけさせる。スクリューパスについても，この段階で身につけさせる。その際，スクリューパスの動きを言語化し学生にイメージ出来やすいように行う。また，この段階でボールの持ち方の注意点を指導する（図6，図7）スクリューパスは，ボールに回転をかけることが大変難しい為，丁寧に回転のかけ方を指導する。

戦術学習でゲーム形式のボール遊びを行い，ラグビーボールの特性や動きながらのキャッチとパスの難しさを経験させる。

第4回～7回：キャッチ&パス①～④

技術学習で，キャッチ&パスをスタンディングでのパスとランニングしながらのパスを見につけさせる。その際，動きを細分化した技術練習を取り入れ丁寧に指導する。スタンディングからランニングのパスに発展する際，一気に難易度が上がる為，学生たちの習得レベルを細かく観察し指導する。パスについての知識と理論の理解が深まってきた段階で，ある程度の反復的な練習を行い，どんどんキャッチ&パスに慣れるようにさせる。学生の上達具合を細かく確認しながら，動きながらのパスも徐々にスピードを上げ，この後のゲーム形式につながるように配慮する。次に，ディフェンスがいる状況でのランニングパスを経験させる。ディフェンスは，止まっている状態から動く状態，連続してディフェンスが出てくる状態と難易度を上げ，ボールを持って前に走ることと，仲間どうしで声を掛け合って，ボールを繋ぐ楽しさを覚える。この頃になると，パスをしながら前進するイメージがつき始める。但し，未経験者の多くは，パスをしたらその場所にとどまる癖がある為，パス&サポートのひし形サポートを見につけさせる。

戦術学習では，ボールゲームやタッチラグビーを行い，技術学習で学んだキャッチ&パス，パス&サポートが使えるようにさせる。技術練習で学習したことが，まったく出せないようであれば，人数を少なくしたり，コートを少し狭くしたりと難易度を低く設定し，学生が技術学習で学んだことが発揮できるように工夫する必要がある。

2）発展指導期

第8回～9回：アタックとディフェンスの攻防_攻撃側有利①②

技術学習では，7回までがラグビーのゲームをする上で必要とされる基本的な技術な為，これまでの復習と少し難易度を上げた技術学習を行う。この頃になると，スクリューパスの習得に差が出始める為，ある程度習得出来ている学生は，学生どうしでも練習できる3対2や4対2などのディフェンスがいる状況での技術練習をさせ，まだ自信のない学生には，指導者が難しく感じている部分を細く観察し，ディフェンスがいない状況での丁寧な指導を行った方が，より充実した戦術学習につながる。

戦術学習では，タッチラグビーやタグラグビーを行い，技術学習で学んだことが，ディフェンスがいる状況でも正確にプレー出来るようにさせる。また，攻撃側を常に有利にさせるようにルールを計画し，チームでトライをとる楽しさや，ディフェンスのギャップやディフェンスがいない場所へ走り込むことやパスを繋ぐことを身につけさせる。その際，指導者は，タグラグビーとタッチラグビーのゲームの構造を理解した上で，ゲームに取り上げる必要がある。例えば，タグラグビーの良さは，タグが取られるまで自由に走り回って良い為に，ゲームによりスピード感が生まれる。一方で，個人の走力が顕著に現れる為パスがあまり繋がらず，男女混合で行う場合は，ボールのタッチに大きな差が生まれてくるという問題点もある。逆に，タッチラグビーは，体の一部でもタッチされたらプレーが止まる為，そこまで走力は顕著に現れない為，パスの回数が多く技術学習で行ったパスを積極的に使うことが出来る。但し，タッチラグビーも，簡単にタッチされてしまうことから，ディフェンスラインを突破することが難しく，ボールを前に運ぶという面では，難易度が高い一面もある。指導者は，タグラグビーとタッチラグビーの良い面と悪い面を理解した上で，上手に授業で扱うべきである。

第10回～11回：アタックとディフェンスの攻防①②

技術学習では，ディフェンスがいる状況での正確なパ

スを身につける。また，ディフェンスの状況に対して，パスをするべきなのか，ボールを持って走るべきなのかの状況判断を身につけさせる為に，ディフェンスを抜くプレーも覚えさせる。戦術学習では，ルールにバリエーションを加え，そのルールを元に，どのように攻めたらトライが取れるのかをチームごとに話し合いをさせ，作戦を作る楽しさを知る。この頃になると，パスも上達しボールが動くようになる為，学生の上達具合によってコートを広くし，よりダイナミックなゲームになるように配慮する。

第12回～13回：アタックとディンフェンスの攻防_攻撃側有利①②

前期のまとめの段階である為，前期で学習したことに磨きをかけさせる。技術学習では，ディフェンスがいる状況でのキャッチ&パスを学習した為，ディフェンスがいる状況でも正確なパスが投げられるようにさせる。戦術学習では，タグラグビーやタッチラグビーのゲーム形式の中で，技術学習で学んだことを出せるようにさせる。また，後期の授業で，前期の振り返りをさせる為に，ゲームの攻防の様子をビデオに録画する。

第14回：スキルテスト，筆記試験，自己評価採点

技術の評価とラグビーについての知識の試験，スクリューパスについての自己評価，前期のまとめを行う。

Ⅲ．検討方法

今回の技術学習の中で，高度な技術技能を必要とするスクリューパスが，未経験者の多い大学授業ラグビーの中で，新しい教材の１つとして有効かどうかの検討する手段として，以下の３つを検討方法とする。

１．スキルテストの結果

14回の授業を通しての最終的にスクリューパスを指定したターゲットに３回の試技で何回当てることができるのかの技能テストを行う。経験者は，ターゲットに対して15mから，男子は，10m，女子は，５mで行った。３回命中をｓ評価，０回をＣ評価，１回から２回をＡ評価とした。

２．スクリューパスについてのアンケート回答結果

技術学習の中で，難しい部分の意見とスクリューパスを取り組んでみての意見，スクリューパスが戦術学習に生かすことが出来るかの意見を回答させる。

３．授業最初と最後の自己採点結果

スクリューパスの理論と実践の理解度に関して，自分自身でどれほど理解が深まったのかを，自分自身で評価し得点をつけさせる。

Ⅳ．結果及び考察

本研究は，ラグビー未経験者が全体の８割以上いる大学授業ラグビーの中で，高度な技術技能と専門的な知識が必要とされるスクリューパスが，授業ラグビーの新たな教材として有効かを検討した。

１．スキルテストの結果

スキルテストの結果から，全体の32%が３回連続ターゲットに命中出来た。全員が未経験者の女子に関しては，女子全体の60%が３回連続ターゲットに命中出来た。（表３）これらの結果からも，今回取り上げた技術学習が初心者に対して効果的な学習が出来たと言える。スクリューパスの理論と実践は，前期の授業の中で十分に新教材として扱える可能性を感じさせた。

表３　スキルテストの結果

評価	S	A	C
男子_10m試技	25%	75%	0%
女子_５m試技	60%	40%	0%
経験者_15m試技	20%	80%	0%
全体	32%	68%	0%

２．授業アンケートの結果

質問１：授業ラグビーをしていて，達成感を感じる時は，どんな時ですか。

回答結果：パス（スクリューパスを含む）に関しての回答が，77%であった。

質問２：授業を通してパスは上達していますか。

回答結果：男女ともに全員が上達を感じているという結果であった。

質問３：パスは右と左，どちらが苦手ですか。

回答結果：男女ともに80%以上が左パスであった。

質問４：スタンディングでのパスと動きながらのパス，どちらが難しいですか。

回答結果：男子は，95%，女子は100%，動きながらのパスが難しいという結果であった。

質問５：それが出来るようになると，ゲームのどのような場面で生かせると思いますか。

回答結果：全体の60%が，パスをする場面に生かせるという結果であった。

質問６：両足立ち片足立ちパスでは，どちらが難しいですか。

回答結果：男子の65%，女子の90%が片足立ちパスが難しいという結果であった。

質問７：それが出来るようになるとゲームのどのような場面で生かせると思いますか。

回答結果：全体の86%が，パスの場面に生かせるという結果であった。

質問８：どのようなスキルが自分に身につけばさらに授業ラグビーを楽しめると思いますか。

回答結果：全体の76%が，パスの技術というという回答であった。

質問９：スクリューパスが投げられるようになって，どんな気持ちですか。

回答結果：全体の76%が，楽しいし嬉しいという結果であった。

質問10：復習とプリント学習を行なっていますが，授業を取り組むに当たって，良い影響はありますか，あるならば具体的にどんなことがあなたに起きていますか。

回答結果：表５

アンケートの回答から，スクリューパスの技術学習が，学生の運動有能感に対して良い影響を与えている傾向を示した。難しいと思っていたスクリューパスが出来るようになり，ラグビーをより楽しめる感覚が湧いてきたのではないかと考えられる。また，スクリューパスの難しさについての回答で，「回転をかけること」が難しいという意見が全体の80%であった。このことから，技術学習の際に，ボールの持ち方や投げ方以外にも，回転のかけ方の指導方法を工夫する必要性を感じた。

３．自己採点の結果

スクリューパスの理論と実践の理解度に関しての自己採点調査の結果から，ラグビー経験者を除く調査結果は，授業最初の平均点数は20点だったが，授業最後は74点という結果であった。この結果から，スキルテストの結果と自己採点の結果の両方から検討すると，14回の授業で十分に学習出来る内容だと言える。残り24点に関しては，後期でさらに伸ばせるように引き続け学習計画をする必要性があると言える。

表４　自己採点の結果

※授業で初めてスクリューパスを学んだ時のあなたと、
前期授業最後の時のあなたに評価の点数をつけて下さい。

評価点数	０点	理論も実践も理解できていない。
	⇕	
	１００点	理論も実践も理解でき実行できる。

	女子平均	男子平均	経験者平均
授業の最初	19点	18点	83点
授業の最後	74点	73点	95点

表５　アンケート回答結果

男子
ルールがわかる
プレーに対して意欲的になる
授業の振り返りが出来ていいと思う
意識して出来る
ポイントポイントで大事なところを毎回復習しているのでみんなわかってきているのと上達している
毎回復習できるので忘れることがない
プレーを頭の中で再現したりすることが出来る
前回の反省を次回で修正しようと出来る
目標を持って出来るので、普通よりも早く成長できると思う
ラグビーの知識が少し身について授業の中でイメージしながらできること
しっかり用語やスキルを覚えられる
用語を覚えることによってさらにプレーがさらに良くなる
忘れたことを思い出すことによって頭に残ると思う
プリントをすることで復習できたり、ルールの理解度が高まっています
言葉を覚えられる
濃縮されていてよい
テストの復習、おさらい
短時間なので集中して取り込むことが出来るのでポイントが理解しやすい
あっという間に終わるので充実感あるので良い
ルールの再確認ができる
女子
ポイントを少しでも考えながらできる
常にポイントを意識しながらできています
どんな名前か考えながらできるから親しみやすくなる
前回できなかったところをイメージして毎回授業に取り組める
ルールなどが理解できるので、やってても見てても楽しい
紙で学習し、実践すること、２回学ぶので理解が深まる
ラグビーについてわかった
前の授業でやったことをイメージすることができます
ポイントをしっかり押さえていて、練習の意味がわかり上達が早くなる
用語を覚えられてラグビーに詳しくなったような気がします

Ⅳ．まとめ

今回大学の授業ラグビーに，スクリューパスという高い技術技能と高い専門的知識の教材を，前期14回の授業の中に取り入れ実践してみた。最初は，学生もあまりの難しさに困惑する場面も見受けられたが，丁寧に学習を進め，必ず復習を行い，また学生の授業の中で上手に出来なかった部分に対して，教員から適切なアドバイスを送ることによって，全体の88%未経験者が，最終的に技能テストでＳ評価が全体の30%，Ａ評価が70%という結果を示し，スクリューパスの理論と実践が未経験者でもある程度習得することが出来たと考えている。今回の実践報告から言えることは，これまで未経験者の多い男女

混合の大学授業ラグビーの中で，難しいということで避けられてきたスクリューパスは，今回実践してみた４つの方法によって（表６），確実に効果を上げることが出来たと言える。また，高度な技術の習得が学生達の運動有能感を高めることにもつながる発見が出来た。新学習指導要領に，タグラグビーが明記されたことも踏まえると，今後の小中高大の授業ラグビーの新たな教材として取り組める可能性があるのではと感じた。今回の実践報告が，少しでも学校現場の指導者の方々の新しい授業づくりの手助けになればと思う。最後に，今後の研究課題としては，さらに授業ラグビーを発展させる為にも，小学校や中学校，高校での技術学習を検討し，それぞれの年代に合わせた教材を開発する必要性があると感じた。

表６　技術学習を進める為に実施した４つの方法

技術学習を効果的に進める為に実施した４つの方法	
1	授業の最初に必ず復習とプリント学習を行い、終わりに振り返りを必ず行うということ。
2	未経験者でもスクリューパスの動きをイメージ出来るように、スクリューパスの動きを言語化リストに割って学習したこと
3	スクリューパスの動きを細分化した、技術練習を作成し実践したこと。
4	授業の後半に必ずゲーム形式を導入し技術練習がゲーム形式の中で生かせるように計画したこと。

図１　スクリューパスの持ち方

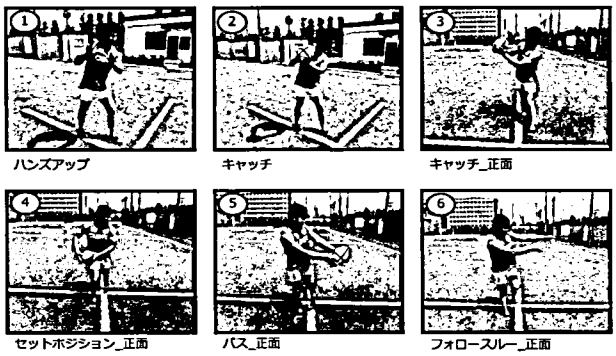


図２　ハンズアップからフォロースルー _正面

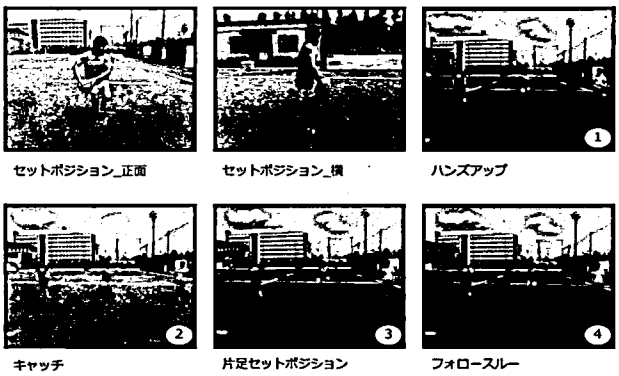


図３　技術練習_３人で片足立ちパス

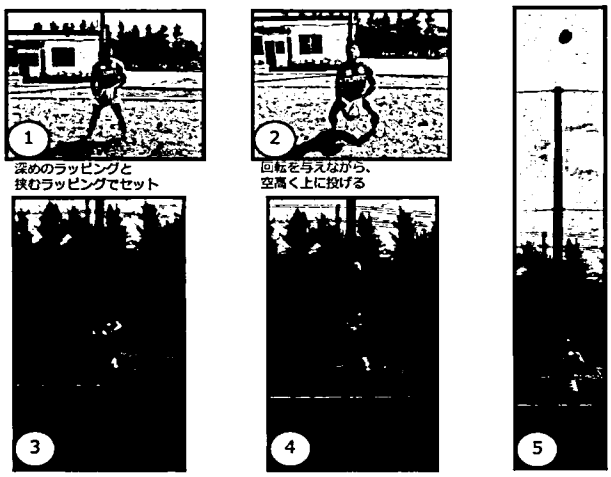


図４　技術練習_回転のかけ方練習

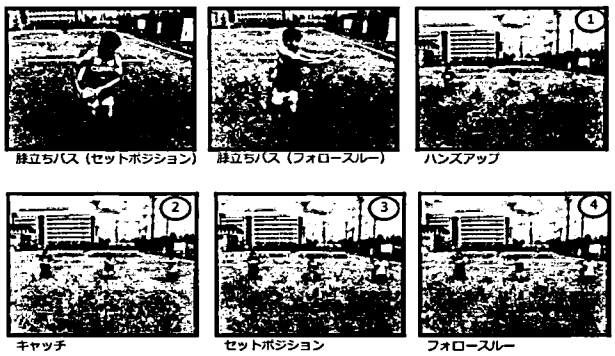


図５　技術練習_膝立ちパス

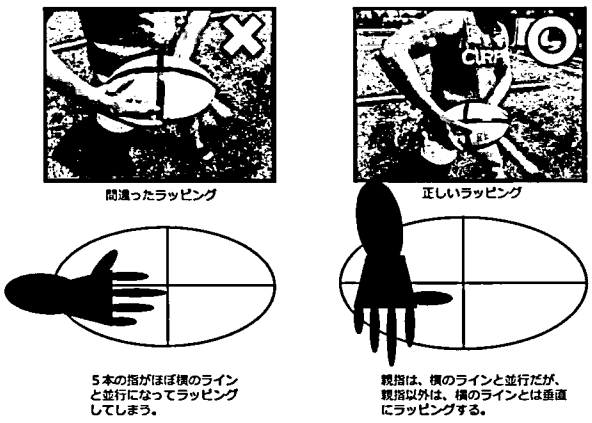
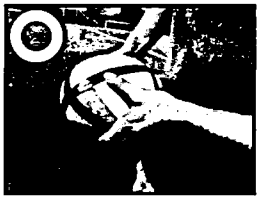


図６　深めのラッピングの注意点

間違ったラッピング
親指はと人差し指でボールの先端側を挟めていない。



正しいラッピング
親指と人差し指でボールの先端側を挟めている。

図７　挟むラッピングの注意点

参考文献

1）岡沢祥訓・三上憲考（1996）体育・スポーツにおける「内発的動機づけ」と「運動有能感」との関係，スポーツ教育学研究16（２），pp145-155

2）小畑治・岡沢祥訓・石川元美（2007）運動有能感を高める体育授業に関する研究―フラッグフットボールの授業実践から―，教育実践総合センター研究紀要，pp123-129

3）八百則和・西村一帆・内田匡輔・木村季由（2007）大学生における戦術学習の授業実践について：タグラグビーを用いて，東海大学体育学部紀要37，pp41-46

4）西山正弘（1999）“作戦・戦術を生かす”楽しさをみんなに―バレーボールのミニ化・ソフト化を図る―（中学校１年生），体育科教育47（４），pp38-40

5）2017年度ラグビー競技規則，pp3